

永遠の契約の血によって良い羊飼、主イエス・キリストを死人のうちからよみがえらせられた平和の神よ、どうか、わたしたちをみ旨にかなう者と、み前に喜ばれるすべての良い業を行わせてくださいますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 にちようがっこう

〒153-0053 目黒区五本木2-20-1
でんわ：03-3710-6031

発行日
2023年
4月30日

4/9(日)の復活日(イースター)はお天気にも恵まれ、日曜学校では教会の庭で「卵探し」を楽しみました！少しずつ以前の活動や行事が戻りつつあります。どうぞ来てくださいね。みんなで待っています(^o^)

今週の聖書 ヨハネによる福音書 10:1-10

1 「よくよく言うておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。2 門から入る者が羊飼である。3 門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。4 自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、付いて行く。5 しかし、ほかの者には決して付いて行かず、逃げ去る。その人の声を知らないからである。」6 イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。7 イエスはまた言われた。「よくよく言うておく。私は羊の門である。8 私より前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかつた。9 私は門である。私を通して入る者は救われ、また出入り



聖書からのメッセージ

『イエス様は良い羊飼』

司祭 池 星熙

当時、その地域には羊飼いが羊を率いて牧草地を探し回りながら羊を飼っていたのです。そういうわけで羊を飼っている囲いも一人のものではなく、その地域共同のものでしたのです。羊飼いたちが牧草地を探して羊を食べさせ、その近くにある共同の囲いに羊を寝かせて留まるしかなかったのです。そこには羊と羊飼いが一つだけあるのではなく、時には多くの羊が入り混じって眠らなければならない状況が多かったのです。羊を連れていく時には門番が羊飼いを確認した羊飼いは自分の羊を一匹ずつ呼びます。すると羊たちは自分を呼ぶ羊飼いの声を聞き取り、自分の名前を呼ぶ羊飼いに従って一匹ずつ外に出て、その羊飼いに従うのです。声が違う羊飼いが自分の名前を呼ぶなら絶対に行きません。羊の中で同じ名前を持っている羊は多いでしょう。羊たちが自分の名前が聞こえても声が違えば出ないのは羊と羊飼いの心の連結点があって互いの信頼があるということです。名前を呼ばなく門を通らないでほかの所を乗り越えてくる者は、盗人であり、強盗です。

して牧草を見つめる。10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。私たちが来たのは、羊が命を得るため、しかも豊かに得るためである。